

勝浦運転区廃止攻撃 - 動労千葉 解体攻撃粉碎へ総力あげつあ

第4回定期委員会 に集まらる

動労千葉第三四回定期委員会
が、六月一七日、一三時より、
千葉県物産センターにおいて開
催される。

勝浦運転区廃止攻撃を許すな!

今定期委員会は、水野・中江
選挙闘争を中心とした春季闘争
を正確に総括し、何よりも勝浦
運転区廃止攻撃に「鴨川運転区
新設」攻撃粉碎へ向けた、組織
の総力をあげた闘いへ進撃する
方針を決定することに、その最
大の獲得目標がある。

「鴨川運転区新設」勝浦運
転区廃止を、五月二五日、JR
千葉支社が「提案」してきたこ
とは、すでに日刊四一九六号及
び四一九七号において、その交
渉の内幕等を速報した通りであ
る。

動労千葉解体攻撃を粉碎しよう

この攻撃は断じて許せない!
この攻撃の意図が、「分割・
民営化」攻撃の過程で、動労千
葉を壊滅させることを前提とし
てかけられた、業務移管・成田
運転区廃止攻撃以降、二波のス
トライキを起点とした八年間の

闘いによって、当局も手をつけ
ることが出来なかった部分。動
労千葉の組織について直接手を
かけてきたということだ。

すでに鴨川において、「測量」
が行なわれていながら、一切「
箝口令」が敷かれていた状況。
その時点では「存在」すらして
いなかった「鴨川運転区」に「
転勤する気はないか」と、「オ
ルグ」をしていた、JR総連の
先行。また、団交の中で一切「
新設」の理由を答えられないと
いう、経営の合理性という意味
からいっても、全く辻つまが合
わない矛盾のかたまりのような
攻撃、まさに新たな動労千葉解
体攻撃であり、組織破壊のみを
目的とした不当労働行為に他な
らない。

われわれは、動労千葉の組織
の存亡にかかるとの攻撃であると
「鴨川運転区」新設勝浦運転
区廃止攻撃を、真正面から見据
えきり、全力で闘い抜かなけれ
ばならない。

「JR貨物の中长期計画粉碎」
基地廃止攻撃を断じて許すな!

一方、JR貨物の「中长期計
画」攻撃をめぐる状況も、いよ
いよその緊迫の度をくわえてい
る。基地廃止攻撃とのハラを据
えた闘いの体制を作りあげなけ
ればならない。

新たな段階に入る原職奪還闘争

さらに組織の最大の懸案事項
であった、強制配転者の「塩づ
け」攻撃との闘いも新たな段階
に入ろうとしている。

すべての強制配転者の原職奪
還に向け、この間の闘いの全成
果を傾注し、必ずや運転関係へ
の復帰を勝ちとらなければなら
ない。

九五年分・民以来最大決戦の年

九五年は、「国鉄分割・民営
化」攻撃開始以来、最大の決戦
の年となった。

今年度決算は、貨物のみなら
ず四国、九州が「赤字決算」と
なるなど、「経営危機」は一層
進行。さらに清算事業団の累積
債務は、九千億円増の二六兆九
千億円にまで増加と、より一層
「JR体制」の危機が進行して
いる。

質を異にした清算事業団闘争の 解体攻撃を断固粉碎しよう!

また、国鉄清算事業団闘争を
めぐる状況も、五月一三日に報
道された運輸省案、①、九〇年
四月に遡って地元JR採用、②
女性、病弱者等を除いて即日退
職させ、希望者を本州に就職幹
旋、③、最終的に解決されるま
での間は休職扱いとし、一部賃
金を支払う、という内容は、国
労とJR総連を串刺しにしよう
とする新たな揺さ振り攻撃であ
ると同時に、支配階級の側が、
「一〇年目の総括評価」を前に
清算事業団問題の「決着」をは
かるという明確な目的と意図の
上から、政治判断を行なってい
ることを示している。

そして動労千葉の「清算事業
団公判」においては、反動判決
をふり降ろしてきたのだ。
われわれは、これまでと質を
異にした攻撃の本質を見抜き、
組織の総力をあげて、真正面か
らこの攻撃に対決しようではな
いか!

全組合員は、第三四回定期委
員会に結集し、闘う方針を確立
しよう!

動労千葉第三四回定期委員会

日時 六月一七日(土) 一三時

場所 千葉県物産センター

新たな動労千葉解体攻撃を粉碎しよう

勝浦運転区廃止攻撃を断じて許すな!